

中国のSARS

マスク文化とユーモア

南條 克巳

SARSが流行り、感染予防と治療に懸命にたたかっている中国。日本では医師会が「感染症の予防には、マスクや手洗い、うがいを実行し、十分な睡眠とバランスの良い食事をとることが効果的」と注意を促した。5月27日、武漢大学と中国科学院微生物研究所がSARS予防・治療に効くペプチド抗体薬剤の共同研究開発に成功したとの報道もある。(臨床実験などはこれからか) SARSはようやく下火になり、中国のSARS退治にも余裕が見え始めた。感染指定地域の全面解除も間近いか。(これを書いた後の6月23日、WHOは北京を感染地区リストから削除したと発表。残るは台北とトロントだけとなった。)

どこの国の庶民にも不安や災難、恐怖や罪悪に対して、ざれことばやユーモアで対抗する「余裕のユーモア」文化がある。ユーモアと風刺に富む中国式川柳、ざれことばを見てみたい。

「SARSに対抗する手： 聖人君子の心もち、科学的な方法で対処する。皇帝と同じ食事を採り、綺麗な空気を吸い、赤子のようによく眠り、燦燦と照る日光の下に布団を干す。」(1)

「耳の不自由な老婆が言った。最近、Feidian, feidian とやかましい。そんなにFeidian, Feidian というなら、部屋の電気を消しなされ。」(2)

(注： Feidian 中国語、非典。非典型肺炎の略、即ち、重症急性呼吸器症候群、Severe Acute Respiratory Syndrome、新型肺炎SARSのこと。中国語では、発音は同じ。非典、費電、費点などの字を当てれば、違った意味になる。それをうまく読めば、「SARS」になったり、「電気の無駄使い」になったり、終にはユーモアとなって思わず吹き出してしまふ。

ここでの最初の Feidian は中国語発音、非典。即ちSARSのこと。また、次のFeidianは費電の中国語発音。電気の無駄使い、浪費。電気がもったいないという意味。)

またもに「電気の無駄使いだとかやかしい。では、電気を消せば。」と読めば、面白くも何ともない。従って「SARS、SARSとかやかしい。そんなにSARS、SARSとうるさく(電気の無駄使いだ)言うなら、部屋の電気を消しなされ。」と読む。

「あなたの耳元にそっと近寄り、静かに頬に触れる。あなたの唇に甘いキス・・・ええ、あなたはマスクよ。あたしを着けるのを忘れないでね！」(3)

(注： 中国ではSARS発生後、マスクの需要が急増し、「マスク経済」現象まで出現した。夜を徹して製造したマスクには、オーソドックスな白いマスクのほか、さまざまなタイプ、デザインのものがあった。ナイキ、ルイヴィト

ン等のブランド付き、ミッキーマウス、マシマロ、キティ、スヌーピー、プーさん等のアニメ・デザイン付きのマスクもあった。台湾では、売り切れてしまい、ブラジャーを利用したマスクを売り出した。ユーモアと言うよりは、逞しい商魂だ。)

「最高指示：食前とトイレの後には手を洗うべし。外出から帰ったら手を洗うべし。車に乗った後には手を洗うべし。ものに触れた後には手を洗うべし。」(4)

(注：「最高指示」とは文化大革命のとき、文革指導部から出された指令。それをもちって「最高指示」風にSARSの注意事項を記した。)

「秘法民間療法：まず、硫酸の風呂に入れ。それから農薬で足を洗う。砒素で胃を洗浄し、猫イラズで歯を磨くのもよし。殺菌のやり方は山ほどあり、すべてをこなすのは疲れるので、いっそのこと、爆薬を一包み買い入れよ。そして、そっと火を着ければ黴菌も何もすべて消滅。」(5)

(注：中国のある地方の学校では、SARS予防にと、国の厳しい規制をよそに許認可もとらず、漢方薬を煎じて生徒に飲ませ、多数のものが中毒する事件が発生した。中国のSARSの影響の恐ろしさは、想像を絶するものがある。例えば、感染都市や地域の封鎖及びそのデマ、偽漢方薬、闇価格、或いは日本の石油ショック時にあった買い漁り、恐怖心理、扇動、詐欺、ポツクリ商法等の「病原菌」も浮き彫りになった。これらは、SARS発生・感染による渡航の自粛(禁止)措置によってツーリズムや貿易で受けた大損害より、ある意味においては勝るとも劣らないものである。余り報道されなかった交通・移動の規制。実際に聞いた話だが、感染指定地域の北

京から上海に移動したが、ガード厳しい上海に追い返された。仕方なく北京に戻ろうとしたら、今度は入京禁止に遭ったと言う。北の長春でも感染地区を通過した車両(人も)の出入りを厳しく規制した。

「バカンスに行きたいの? では、すぐ120番の無料電話をかけなさい。すると、タダの7日間病院周遊パックが当たるの。今すぐかければ、マスクと殺菌消毒セットを贈呈。それに救急車の送迎付きよ。先着10名まで無料で隔離優遇されるのよ。」(6)

中国を中心とする地域で発生したSARSは猛威を振るい、各地に蔓延し、実にさまざまな被害をもたらした。4月、新学期に入り、授業でSARSを取り上げた。わが大学でも、留学生の帰国勧告、帰国後の措置、今後の留学予定、奨学金、履修手続き、単位取得など問題が続出。適宜処理されたが、SARSは実に多くの問題をわれわれにも残してくれた。中国語の学習で、時宜にかなう恰好なテキストとして、一石二鳥以上の効果はあったのだが。

中国は人口も多し国土も広い。また、発展途上の大国であるためか、突如として襲い来る危機に対する「危機管理」も不十分であったようだ。そこをSARSに狙われたのか。

しかし、SARS発生後、中国の政府は急遽態勢を建て直し、SARSの予防治療に国民をリードし全力を挙げた。被害真相を直ちに公にしなかった衛生部(厚生省)の大臣や首都北京の副市長(級)をクビにし、信頼度を高めた。感染者を出したら、政治生命をかけ辞任すると公約をした地方長官も大勢いた。SARSは5月に入り、ようやく下火になった。それは香港(特別区)政府が出したデータからも分る。6月13日、北京はWHOの「渡航延期勧告の解除」、「感染地域の指定解除」措置を受けて「SARS警報解除の段階に達した。だが、油断

してはならない」と内外に発表した。

人間が多ければ、それだけクチも多く、いろいろな意見、さまざまな論議が出てくる。特に、SARSのような未経験の「見えない敵」に対して「恐れ 恐れるな」「手を洗い、マスク着用、換気を良くし、人ごみに注意」「諦め 自信と気持ちを明るく」など、真面目な啓蒙的な忠告や戒め、ユーモアと共に社会・政治風刺、ざれことばが、割に早い時期に流行った。中国人の楽観的な自信と智恵であろうか、或いはすぐ忘れるいい加減な精神構造に対する戒めなのか。

「度量をもう少し大きく、言葉はもう少し優しく、機嫌をもう少し良くし、笑みをもう少したたえ、平素はもう少し清潔にし、SARSはもう少し向こうへ！」(7)

(注： これは中国語の「・・・一点」、「もう少し・・・」の言い方で揃えたもの。)

「恋人がやって来ても、SARSなんか怖くない。キスする前に、酢を飲めば、キスもそれだけ味が出る。口付けしながら板藍根を飲み、終わったら、大きなマスクをして眠りましょう。あの余韻はこたえられないわ。」(8)

(注： 板藍根は風邪に効くと言われた昔か

らの漢方薬。黒酢と共に、広東、香港等でSARSに効くと宣伝し、消費者は高価なものを買わされたが、効果はなかったという。また、不思議なことに、これに対する苦情も出なかったと言う。)

「あなたもやっている？ 最新のファッション：マスクを着け、ジョン・レノンを歌い、胸には「SARS退治」、背には「戦争反対」と書いたTシャツよ。」(9)

「SARSに遭ってみて自由に呼吸出来る有難さを知り、マスクを着けてみて始めて真実の顔が見えた。非常時の想いが人情の貴さを教えてくれた。」(10)

中国のSARS問題で、可哀想な場面に直面したのは人間だけではない。動物もそうであった。特に、ハクビシン(中国では白鼻心、果子狸などと言う)。最近、中国ではDNA鑑定の結果、「無罪」「冤罪」が証明されたとの報道もある。SARSはまた、良いことももたらした。しかし、最大の成果は一般庶民の、党・政府に対する信頼と国際的な信頼と協力を勝ち得たことだと思う。そして、以上及びその他のざれことばや報道から、中国はSARS問題で大きな自信を得たことが分かる。